

## 令和4年度第1回古賀市障がい者施策推進協議会 会議録

日 時：令和4年10月7日（金）19：00～20：00

場 所：サンコスモ古賀 201・202 研修室

参加者：委 員：占部委員、大塚委員、加藤委員、川島委員、北崎委員  
松崎委員、松本委員、三苫委員、岳藤委員、小口委員  
山下悦子委員、山下実夫委員  
（欠席：石井委員、藤井委員、三島委員）

傍聴人：0名

事務局：渋田部長、星野課長、澤木係長、野田、中橋、松尾

### 《開会宣言》

15人中、3人が欠席。出席が12人となり、過半数を超えているため、本協議会成立。

### 1. 古賀市保健福祉部長あいさつ

渋田部長：本日は、「第4期古賀市障がい者基本計画」と、「第6期古賀市障がい福祉計画・第2期古賀市障がい児福祉計画」の令和3年度の取組状況や実績等を報告する。忌憚のない意見をお願いします。

《事務局自己紹介》

### 2. 委嘱書交付

松本委員に委嘱書を交付。

《松本委員自己紹介》

### 3. 会長・副会長選出

事務局：山崎会長の退任に伴い、新しい会長の選出、また、今期、副会長の選出ができていなかったの、副会長の選出を行いたい。立候補はあるか。

（立候補なし）

事務局：それでは、事務局から事前に相談をしていた古賀市社会福祉協議会の加藤委員に会長をお願いしたいと思うがいかがか。

（委員同意。拍手あり）

事務局：続いて、副会長を選出したいが、立候補はあるか。

(立候補なし)

事務局：それでは、事務局から事前に相談をしていた福岡コロニーの三苦委員に副会長をお願いしたいと思うがいかがか。

(委員同意。拍手あり)

#### 4. 「第4期古賀市障がい者基本計画（障がい者福祉プラン・こが）」の進捗状況について

【資料1】『第4期古賀市障がい者基本計画』 令和3年度進捗状況

【資料2】令和3年度 参考資料集

《事務局より、資料1・資料2について概要説明（資料1については、全体として新型コロナウイルス感染症の影響があることを説明のうえ、新たな取組と評価が変わったところを中心に説明）》

会長：委員から、意見や質問等はないか。

委員：視覚障がい者の人数について、高齢者が多いのか。

事務局：現在、年齢構成の資料が手元にないので、後日、委員に報告する。

会長：他にあるか。

委員：啓発の部分についてだが、以前は、「みどり」が、民生委員や農業委員会の会議の中で、「精神障がいとは」という話をしたりしていたが、最近は声がかからない。福祉課が橋渡しをしてもらえたらありがたい。

事務局：紹介などしていきたい。

会長：他にあるか。

委員：資料にある広報誌の記事は原本サイズか。原本サイズなら、発達障がいやピアカウンセリングなど、わかりやすくとてもいい。

会長：今後も広報誌を活用した啓発は続けていただきたい。他にあるか。

なければ、レジュメ次項の「第6期古賀市障がい福祉計画・第2期古賀市障がい児福祉計画の進捗状況」に進みたい。

## 5. 「第6期古賀市障がい福祉計画・第2期古賀市障がい児福祉計画」の実績について

【資料3】『第6期古賀市障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画』実績

《事務局より、資料3について概要説明（今回より、実績の数字は、福岡県の計画にあわせ、毎年度3月の数字としている旨説明）》

会長：委員から質問や意見はないか

委員：計画相談の利用者は増えていくと思うが、近隣を含め事業所は増えているか。また、作成される計画の質の担保について何か取り組んでいるか。

事務局：事業所数について、近隣まで把握できていないが、現在のところ、古賀市では増えてはいない。新たに相談員の研修を受けるところが1か所あり、新設に向けての動きはある。質については、福祉課が受領した計画案について内容が不足していると判断した場合は、相談支援員に電話で追加の聞き取りを行ったうえで、今後、計画に書き込むように依頼している。

会長：他にないか。

委員：一般就職後、どれくらい定着できたか、数は把握できるか。

事務局：就労移行支援や就労定着支援を利用した人については、追跡調査により、ある程度把握はできる。

委員：就労部会で、就職の準備段階でどういう支援をすれば、定着につながりやすい等の事例を勉強してみても。うまくいかなかった事例も、検討価値がある。

事務局：検討する。

会長：他にないか。

委員：放課後等デイサービスについて、療育をせずずっとテレビを見せたままという報道を以前見たことがあるが、古賀市の事業所ではそういうことはないか。

事務局：市が随時見回っているわけではないが、障がい福祉サービスを受けるときの計画面やモニタリング報告を見る限りは、その子に必要な療育が提供されていると思っている。我々も、書類を届ける等、事業所を訪問する機会には様子を確認するようにしたい。

委員：今の質問に関連するが、事業所によっては、その方が落ち着いた状態でいられるから、といったような理由で、メディア漬けにしてしまうところもあると聞く。古賀市から放課後等デイサービス事業所に対し、子どもが安心して過ごせる療育の場になるよう、指導等はしているか。市として指導をしてもらえるありがたい。

また、市のこども発達ルーム利用児の保護者から、「こども発達ルームの先生から、この子は絶対に特別支援学級に入れた方がいいと言われた」という話を聞く。実際には、普通学級でも支障のない子どもで、インクルーシブ教育の理念に沿っても、一緒に過ごすことで、本人や周りの子にとって互いに良い影響がある。こども発達ルームの先生は、何を基準に、特別支援学級を薦めているのか。

また、先天的な障がいだけでなく、子どもがメディア漬けになることで、後天的に脳に支障が起こるというデータがある。現在、6カ月健診の機会にメディア啓発をしているが、こども発達ルームの先生にはその認識があるか。また、放課後等デイサービス事業所の従業員等へもメディアに関する研修を行う必要があると考えるが、いかがか。

事務局：事業所への指導等は、事業所の指定権者が福岡県であることもあり、福岡県が中心となっていく場合が多い。もし不適切な療育を行っている事業所があれば、市へご一報いただければ、市が県へ繋ぎ、対応を相談する。福岡県へ直接相談してもらっても構わない。

事務局：基本的には、県が指定権者であるが、保護者の方からまずは市へ相談いただいて構わない。福岡県にその情報を上げて、相談する。

また、こども発達ルームの職員の助言内容については、子育て支援課の所管であり、福祉課としては回答しかねる。了承願いたい。

メディア啓発については、子どもの発達段階に応じた啓発が行われていると認識している。

委員：事業所の職員に対するメディア啓発はできないか。

委員：事業所の職員への研修は、各事業所の理念に沿って、責任者の考えによって実施するものであり、行政が一律に研修を行うのは難しいのではないか。しかし、委員が、メディアについて懸念する意見には、共感する。

会長：ゲーム脳、スマホ脳等も聞くところであり、長時間利用には留意が必要かもしれない。

特別支援学校から松本委員が来られているので、ひとこといただければ。

委員：特別支援学校でも、放課後等デイサービスを多くの生徒が利用している。放課後等デイサービスの職員と、子どもの様子や学校の教育方針等、情報交換を行うようにしている。

会長：他に意見等ないか。

委員：資料の「居宅介護」のところで、令和2年度から令和3年度で、人数は増えているが、時間数は減っている。1人当たりの時間数が減ったということは、区分の軽度の方の利用が増えたのか等と想像するが、何か理由がわかるか。

事務局：この数字は、3月の利用実績である。想像の域だが、令和4年3月はコロナ感染者が増加した時期であり、短時間利用が多かったのではないかと考えている。

会長：他にないか。それでは、レジュメ4・5の協議はこれで終了する。

事務局：6. その他は、事務局からは特にないが、委員からはいかがか。  
それでは、これで会議を終了する。

以上